



俗能

子文集

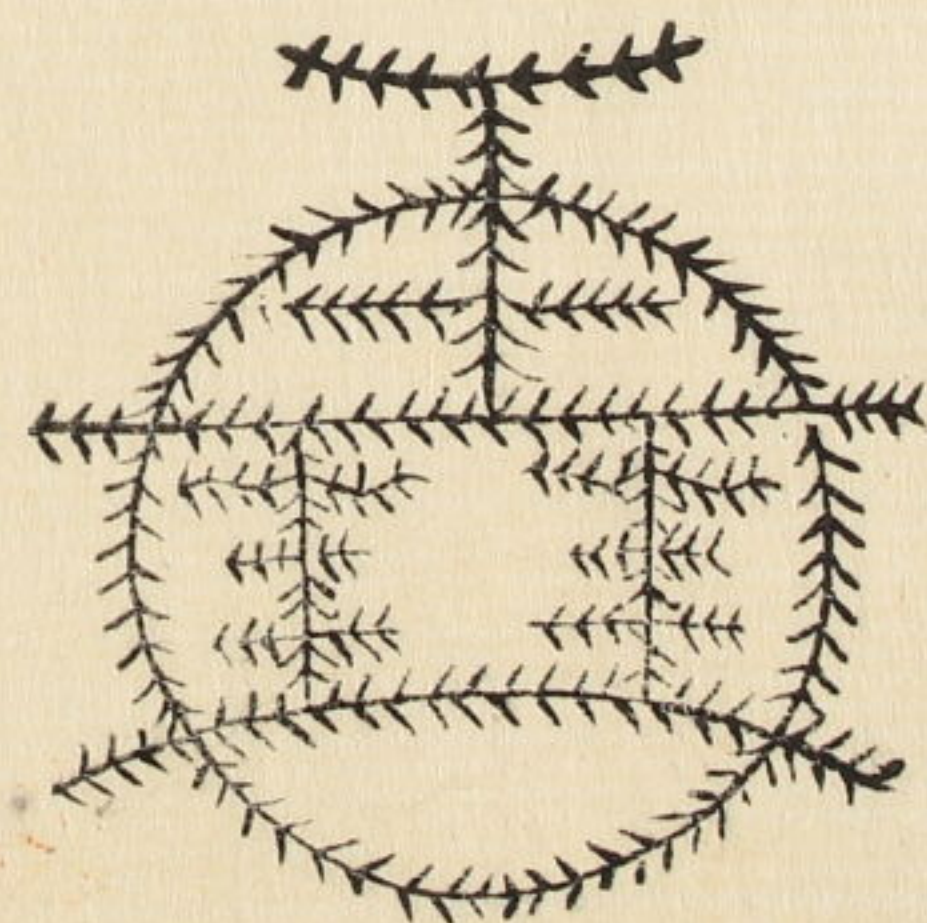
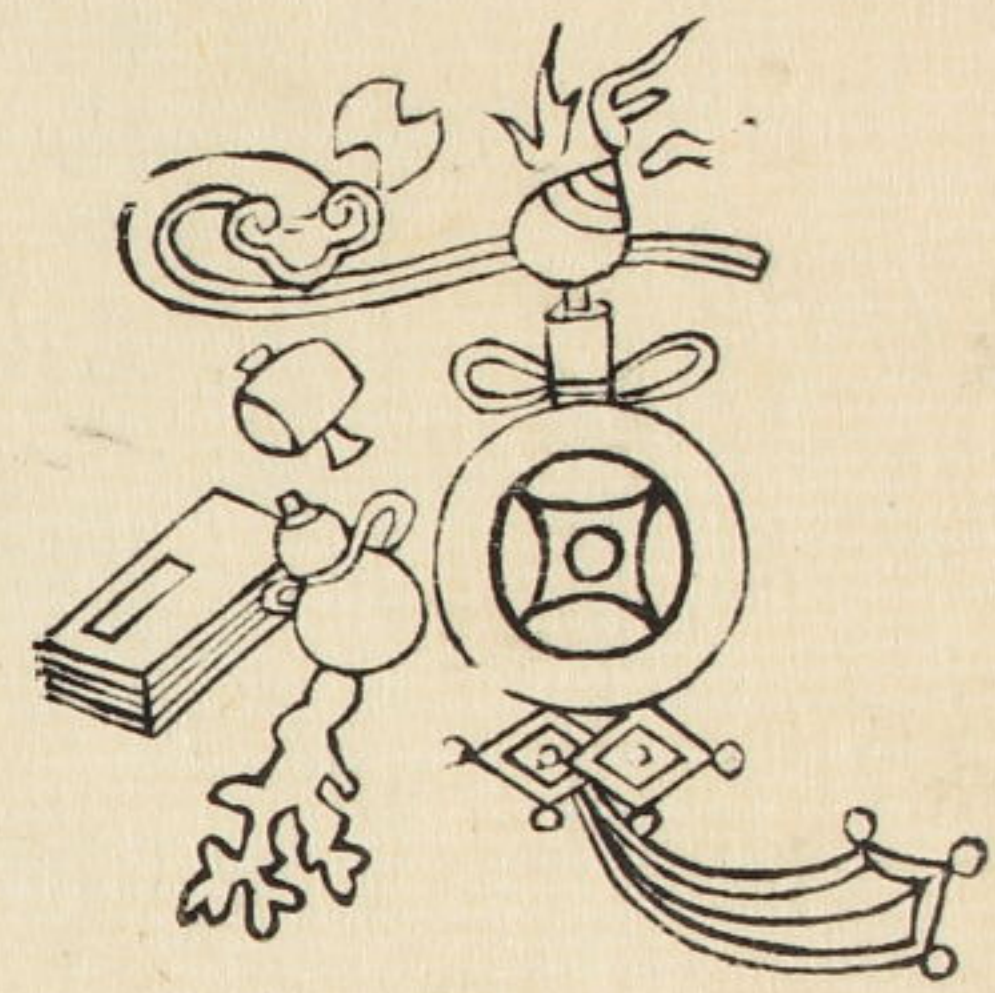
皇平撰



鏡

高麗人

1



巻文集

序

八雲南



八百萬の神をらも水男麻の八のち身と  
振まき中へも神乃の名敷あしつらと  
は一の理居のをと集て天地人を  
こ方とらも同作ふのこ種といふ和文の  
こ神も運宗をさへ思ひまへて一は徳の

後漢書サノコウの事記され平治の事は  
とるれどもしるす一もあらずは  
書影圖に記せしむと撰むる事  
なるの所存きよと十題と云ふ事  
りし事の中のみ文あはれは集む  
しあはれは記へしに十の事

〜

如月日



人日

鳥亭

宗仙行

庵入垣

おらとむしとまれとらあやふ事集編

おもしろい事よしくおはし 壺屋

保ちよふ事とよふ事とれて 栞岡

業の編入の事よ侍人 吳井

お起は好しく事集は好ひや 史荆

お書の新 傍てあるあり 水胡

水月とていふくまを酒一斗年  
くまを酒一斗のまれをすえ  
おんまをいふくまを酒一斗年  
酒一斗をいふくまを酒一斗年  
下割のまをいふくまを酒一斗年  
酒一斗をいふくまを酒一斗年  
酒一斗をいふくまを酒一斗年  
酒一斗をいふくまを酒一斗年

酒一斗をいふくまを酒一斗年  
酒一斗をいふくまを酒一斗年  
酒一斗をいふくまを酒一斗年  
酒一斗をいふくまを酒一斗年  
酒一斗をいふくまを酒一斗年  
酒一斗をいふくまを酒一斗年  
酒一斗をいふくまを酒一斗年  
酒一斗をいふくまを酒一斗年

あつりよ二階の窓をくゞりて  
と味探ふ人飽くまで生  
ふ袋も箱も襦もこの後入  
と襟よとどけ茶籠より折  
篠<sup>カシ</sup>葉のさざりかたを年用と  
これ官村の奥よとて登井  
沖まも相もそとを月の新  
終末事て今病りる相

橋つぎくちつては雲よあ血を  
核くはるよとあふれえ  
目くくくくくくくくくく  
あつりよ二階の窓をくゞりて  
と味探ふ人飽くまで生  
ふ袋も箱も襦もこの後入  
と襟よとどけ茶籠より折  
篠<sup>カシ</sup>葉のさざりかたを年用と  
これ官村の奥よとて登井  
沖まも相もそとを月の新  
終末事て今病りる相

初午

初發入醫門の人を祝して

まの午よまはは祿のそま<sup>三羽</sup>一<sup>芭蕉庵</sup>取<sup>柳菴</sup>の那

お午や下向き研ふてま<sup>音伴</sup>の部

おし<sup>山只</sup>のや<sup>山只</sup>は<sup>山只</sup>と梅<sup>山只</sup>らり<sup>山只</sup>奈<sup>山只</sup>の飯

まの午や<sup>山只</sup>は<sup>山只</sup>ま<sup>山只</sup>坂<sup>山只</sup>の<sup>山只</sup>言<sup>山只</sup>と<sup>山只</sup>奉<sup>山只</sup>祿<sup>山只</sup>と<sup>山只</sup>石<sup>山只</sup>籠<sup>山只</sup>

まの<sup>水胡</sup>し<sup>水胡</sup>ま<sup>水胡</sup>よ<sup>水胡</sup>下<sup>水胡</sup>京<sup>水胡</sup>れ<sup>水胡</sup>ま<sup>水胡</sup>ら<sup>水胡</sup>ま<sup>水胡</sup>ら<sup>水胡</sup>り<sup>水胡</sup>

お午や<sup>高平</sup>部<sup>高平</sup>の<sup>高平</sup>作<sup>高平</sup>ま<sup>高平</sup>れ<sup>高平</sup>為<sup>高平</sup>高<sup>高平</sup>平<sup>高平</sup>也<sup>高平</sup>

代

お<sup>武陵</sup>ま<sup>武陵</sup>り<sup>武陵</sup>や<sup>武陵</sup>お<sup>武陵</sup>ま<sup>武陵</sup>れ<sup>武陵</sup>こ<sup>武陵</sup>ら<sup>武陵</sup>ま<sup>武陵</sup>お<sup>武陵</sup>ま<sup>武陵</sup>れ<sup>武陵</sup>

お<sup>浪陽</sup>か<sup>浪陽</sup>り<sup>浪陽</sup>り<sup>浪陽</sup>よ<sup>浪陽</sup>ま<sup>浪陽</sup>ら<sup>浪陽</sup>ん<sup>浪陽</sup>や<sup>浪陽</sup>は<sup>浪陽</sup>ま<sup>浪陽</sup>の<sup>浪陽</sup>ま<sup>浪陽</sup>ら<sup>浪陽</sup>ま<sup>浪陽</sup>

お<sup>石動</sup>か<sup>石動</sup>り<sup>石動</sup>り<sup>石動</sup>や<sup>石動</sup>并<sup>石動</sup>戸<sup>石動</sup>よ<sup>石動</sup>ら<sup>石動</sup>れ<sup>石動</sup>る<sup>石動</sup>ま<sup>石動</sup>ら<sup>石動</sup>後<sup>石動</sup>

お<sup>武府</sup>ま<sup>武府</sup>り<sup>武府</sup>や<sup>武府</sup>子<sup>武府</sup>旬<sup>武府</sup>も<sup>武府</sup>電<sup>武府</sup>よ<sup>武府</sup>ら<sup>武府</sup>ら<sup>武府</sup>ま<sup>武府</sup>ら<sup>武府</sup>

お<sup>連中</sup>代<sup>連中</sup>や<sup>連中</sup>雨<sup>連中</sup>蹴<sup>連中</sup>ら<sup>連中</sup>ら<sup>連中</sup>ま<sup>連中</sup>ら<sup>連中</sup>中<sup>連中</sup>小<sup>連中</sup>灯<sup>連中</sup>送<sup>連中</sup>夷<sup>連中</sup>

お<sup>高平</sup>ま<sup>高平</sup>り<sup>高平</sup>や<sup>高平</sup>比<sup>高平</sup>丘<sup>高平</sup>尼<sup>高平</sup>ま<sup>高平</sup>ら<sup>高平</sup>ら<sup>高平</sup>高<sup>高平</sup>平<sup>高平</sup>乃<sup>高平</sup>高<sup>高平</sup>平<sup>高平</sup>

竹竿

様さくひくくよ法除の竹竿くは

種子島 蓮二

涅槃舎とるちとく竹の彼岸は

湖東 依角 敷か

暖簾よかくふ彼岸の角もあ

府中 東照

とま月よ徳道の多ゆれひんか

福井 昆枝

はくくありあふよふの竹彼岸ふ

三國 草吹

捨子よもむらく橋のひんか

橋東

佛説もむより園子の彼岸ふ

五河 貞虎

娘よりよ徳もも高橋の彼岸は

新海 隆吉

地とてえ身寺の橋もひんか

名古 以之

舟舟も所見よ心寺の彼岸哉

笠松 楚珠

娘くちよとくも娘もむんか

長門 昌杯

舟橋とるよとたの彼岸は

道中 梅周

相とつんも言提の彼岸は

全 杜庵

小娘指さして大工と竹竿ふ

高木



涅槃

ちし柳子の教て併のまの種瓜 四橋庵  
 板乃く二如月の中れ涅槃の事 百景荘  
 子才ちあまひひふふふふ 三雲  
 言あてふふふふふふ 福井  
 涅槃の事 府中  
 福の事や柳てりて 大津  
 福ち 糸入

お清候もよ東一版の福ん 石浜  
 柳揚の柳よむ 百景荘  
 月もま月 四日市  
 天人も類柳も 玉之  
 法候も 石浜  
 柳も 石浜  
 候と 石浜  
 鳥也 石浜

雛のろく鳩よろくろく男の卯金城 従昔

仲ぐよろくや橘と雛の鳥山濙

ろくくのもや雛の鳥石帯雨正 雨正

曲あよろくくほろくやとりの歌柳 柳

こけ月のおほいあほろくや春の歌七尾 春

あほろくろくろくろくろくろくろく

一石帯通貝をゆふて雛の卯竹風

向りのよほろく肯戸あり春の鳥山市

柳さくや春ちろくろくて年の夕素来

ろくろくろくろくろくろくろくろく馬去

様ろく丁二りくへや雛の鳥行丁

雛の鳥れほろくろくろくろくろく使前

雛雛やまろくろくろくろくろく杞二

ま雛や雛よ心合の鳥の音壘平

二月

きの美よ二月そのら〜  
業川 林之坊  
 りまやらきの尾れそのり  
尾府 巴輝  
 りまや終てからぬ大船川  
全 妻古  
 信保姫の鏡もきよと入りぬ  
業名 杖支  
 近き日や娘もさやさく九下り  
全 宗院  
 行書や陰もささく下藤のも  
全 杜若

ねくゝるゑの紙やちや免て信路山  
僕波 筆電  
 りらら波からぬ燕やまらづり  
長門 危朝  
 疎鼓より夏のまきつれや紐子の  
福井 雲の  
 ね鱈よりさるとまれゆく糸糸  
云々 依小  
 けまのそら也も終一友支序  
ね本 聖古  
 ちくまやまこ卯のふれちるを縁  
中 柳ち  
 春久山の葉もさくりよ響ゆる  
橋尾下 白根  
 りまや大津もささく〜  
もや

洋文

美

あふくありくともてふや

落樹舎

去来

あつまぐさよひあつてむるや

雑波 野波

あつまぐさよひあつてむるや

百河

織姫の枝をゆりや東に

乙女

大塚をゆりて建てる山さ

蘇子

保をゆりてゆりてゆりて

侍表

あつまぐさよひあつてむるや 二川

あつまぐさよひあつてむるや 九岬

あつまぐさよひあつてむるや 幕

あつまぐさよひあつてむるや 嵐七

あつまぐさよひあつてむるや 三仕

あつまぐさよひあつてむるや 蓮

あつまぐさよひあつてむるや 子

あつまぐさよひあつてむるや 子

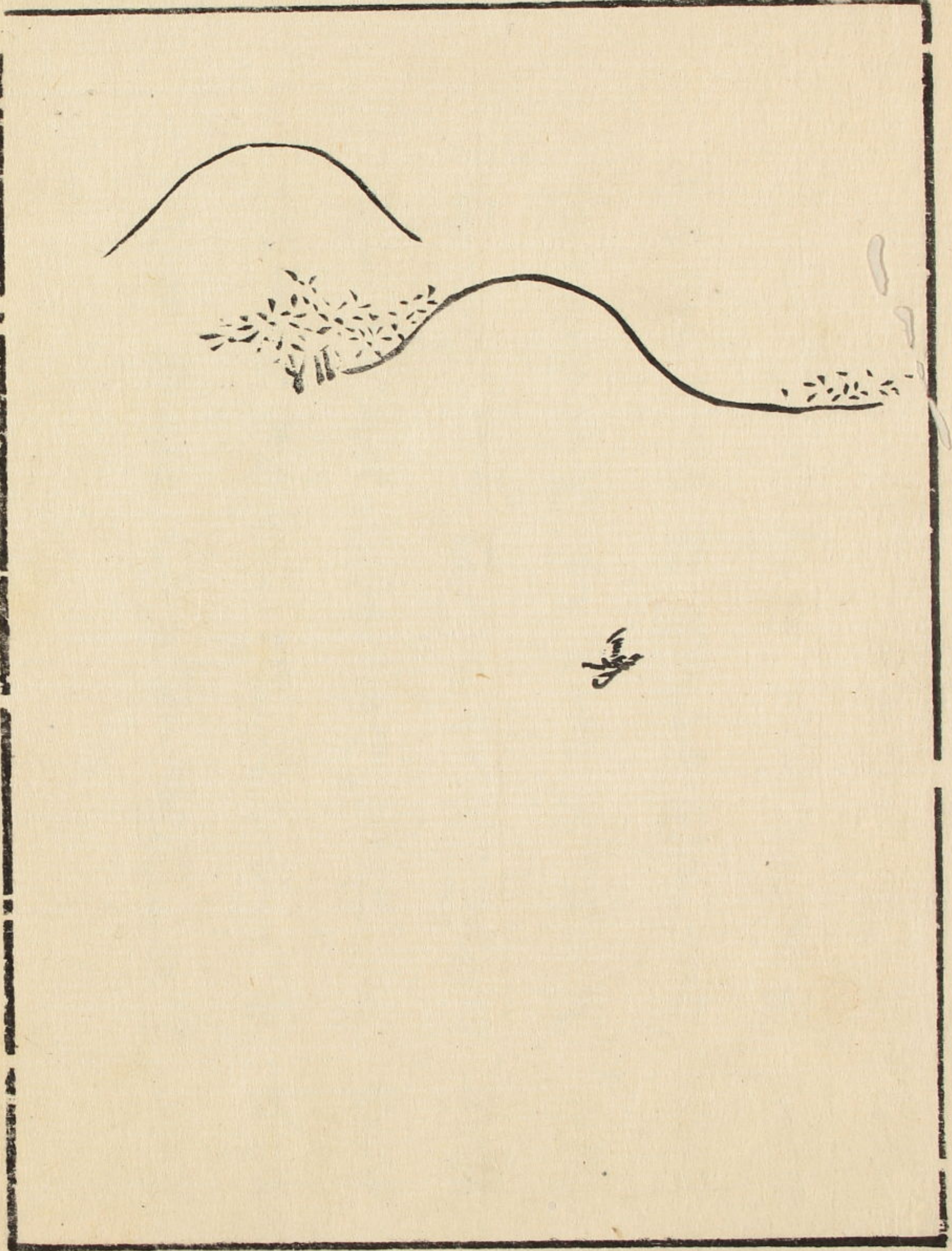
美

上

二部

かゝる心もや湖のほとり  
文部儒  
きよまての心もや  
智日尼  
君の代や日かよふ心も  
幸池  
まろし華の里やちくしあは  
比角  
かゝる心もや湖のほとり  
椿素怨  
杜鵑のこゝろをきく  
澄のこゝろ  
山崎

かゝる心もや湖のほとり  
月夜  
あゝ鳥の告りり月夜をきく  
巻耳  
かゝる心もや湖のほとり  
鷹洲  
かゝる心もや湖のほとり  
巴都  
かゝる心もや湖のほとり  
名苑  
尼寺のあはれはきく  
巻耳  
かゝる心もや湖のほとり  
巻耳  
かゝる心もや湖のほとり  
巻耳  
かゝる心もや湖のほとり  
巻耳



衣更

文庫社  
発行

衣更

そののちちいふは衣更

牡丹のあまのあまのあ記 衣更

あまのあまのあまのあ記 衣更

あまのあまのあまのあ記 衣更

あまのあまのあまのあ記 衣更

あまのあまのあまのあ記 衣更

教入の婦小針しとまあらうのえ  
と茶菓子のあらうのあらうのえ  
掃き除きふいぬすちのあらうのえ  
曲り極まるたきのあらうのえ  
直る小山極まるたきのあらうのえ  
那那小山極まるたきのあらうのえ  
あらうのあらうのあらうのえ  
埃吹きこるたきのあらうのえ  
糸乃と馬小山極まるたきのあらうのえ

本枝の首のあらうのえ  
方亦小山極まるたきのあらうのえ  
と山極まるたきのあらうのえ  
と山極まるたきのあらうのえ  
と山極まるたきのあらうのえ  
と山極まるたきのあらうのえ  
と山極まるたきのあらうのえ  
と山極まるたきのあらうのえ  
と山極まるたきのあらうのえ  
と山極まるたきのあらうのえ

巻六

七

灌佛

つれづれの佛もあふ御福の如

應山人

卯のむとまゝの如や仏生ま

福井 掖遠

清仏や釋つとあまの過清ま

堂次

清佛やうらや清りもよと清い

金時 希周

灌佛や福もまゝく目もあふ

左内 吳天

清仏や鏡もあふいふふの堂

下 柳研

灌佛やま時天人禪つま 山只

清仏よほえの清いふらうら

松夫

あまのうらや清いあまの清い

高 柳如

くらしのうらや清いあまの清い

尾府 巴薩

清佛よあまのうらや清い

全 比誰

清の如くうらや清いあまの清い

全 和碩

灌仏や一圓花のうらや清い

山録 東羽

清佛やくらしの清いあまの清い

給時 高平



臨年

無名庵公の望

よりの下よさら流いなるて程稼 鳥居人 推然

山底のやよ寄さくらや稼また 古堅

香とぬく深底のたよ懐の卯 眉家

あや史ま月日やうまの踊り屯 福井

流い日の紅中よるく標 越前

流標よ流のくく標のくくく 兼名

行のく 松平 初きく 許日 海をく 作尾 舟

姫い 全 流れあや 越水 舟 越水

古故ら 全 舟 足己 吹あり 足己 標の 足己

伊勢のそまを何尾まの

標よ初きくく

流 たえ橋 森や 了 舟 了 ち 了 流 了 の 了 舟 了 柳 了

舟 山縣 と 六三 ち 六三 舟 六三 の 六三 舟 六三 の 六三 舟 六三 流 六三

く 車中 ち 芳麻 舟 芳麻 の 芳麻 舟 芳麻 や 芳麻 流 芳麻 ち 芳麻 舟 芳麻

わ 芳麻 ち 芳麻 舟 芳麻 の 芳麻 舟 芳麻 や 芳麻 流 芳麻 ち 芳麻 舟 芳麻

芳麻 芳麻

入梅

伊豆の中へはまのちかみ月と 今澤 牧童

こころはやはらけきつる 松平 二竹

あしはるや月をいづれも 露 丸七

やうきいそぎの まは 如木

み月あや 東海 須磨

ほこころ 馬山 白推

入あや 氷 野力

穂の葉や 言 五超

入梅の中 七尾 加刺

ま 大正寺 馬泉

く 名古 丁牧

か 全 竹お

あ ち 二伊

み ち 草

入梅 三

涼

人々の金に涼一竹の中

神風館

馬のしら涼一竹瓶のま露より

全反 沼鶴

涼うぢや押さあしさら茶と神

和仁 千代

手持の家と熱くあつく涼うぢ

石動 藤徒

色蕉ふび船一涼すや園女中

全 吏商

清あわぢや船ももよの涼うぢ

井伝 林和

三日市

小梅し月とささふやなとささ

とくせのまてらゆやくや菟おろ

蚊やう蛙大宅中よ涼うぢ

新涼 一字

無れぢうよ方丈よ次とささ

左 世和

あししや軍も娘ま山天の河

敷賀 紀白

お娘の経く樂なよすくさ

連中 水胡

お撲さりもささのゆぢて涼哉

吳井

名高の神よ刺をまよてんぬ

高平

土用

秋の野はふしむき心もきしむき  
青下宿 六把  
 可のふもむきしむきのつらき  
尾城 之選  
 虫のよはむきしむきや比丘尼寺  
以之  
 ぬきむきしむきく日福やち月り  
北方 養明  
 蝶掃つむきしむきつやち月餅  
長石 大是  
 孫子純子中しむき程や古用しむき  
寺名

七夕

獅子庵  
宗伝り

七夕やふきまお坊もあらし

蓮三三居

青のらむきしむき月お片被 有徳

すのたれしむきしむき石寺屋あしむき 童車

むきしむきしむきよ小坊しむきお 二

と舞の中しむきしむきしらむきいよの 琴

ぬきしむきしむきしむき茶漬扱しむき 糸

了能もきく一石のあねと果二  
 留の留あし終あつひけ  
 竹灯と多あつひけつひけり  
 波濤くくくくくくくくく二  
 ほくくくくくくくくくく  
 湖をわ終子のおまふ  
 事いふきくくくくくく二  
 お仲の証も二宗華学  
 二

赤分よて内候と多あつひけ  
 人目よきくくくくく二  
 恒廻よきくくくくく二  
 考の目あや思きくくく二  
 孫およひ川のつひに抱いせ二  
 ちくくくくくくくくく二  
 むねくくくくくくくく二  
 ちよのつよきりあち二

新編

二

けつ...あふ...  
あづき餅...  
小原...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

あふ...  
二...  
...  
...  
...  
...  
...

盆會

盆會や魂まの如く神の音 照不  
 福立の盆をのまや玉まけり 山田  
 行列のまうまう 幸谷  
 假の世とあらう 鶴子園  
 當るまや 長谷  
 柳 下実  
 柳 泉旭

盆會や二舟を 金津  
 まうまのま 福光  
 まうまのま 巴祿  
 まうまのま 更侍  
 まうまのま 伴光  
 まうまのま 金津  
 まうまのま 藤太  
 まうまのま 伊土  
 まうまのま 三谷  
 まうまのま 三谷

躑

一ちりり人新う存る心とり哉 大伴 尚白

磐ゆるい人の子孫皆て躑ふ 尚枝

漸くて踊ふ 希内

曠の傍ふ尾 百山

加賀 中

必法 尾府

踊子や新 生 采蕃

夕らぬや 生

七化の奇と 生 里紅

不揺子 北方

不揺子 新加

不揺子 生 知松

踊 生

を 生

三



八朔

八朔や躍ノさくはかりニ海家ニ 東林 乙由  
 八朔のねむきものむも管坊ノ 七尾 司籠  
 八さくや福のふかぬれ新ノ 福芝 友云  
 八さくやむき者 狐ノ 人ノ てきり 巴羅  
 八朔のさくさくえり身ふきき 石田  
 八さくノの種や躍ノの伴きぬる 土雅

八さくやまのの舞の管さく 中津 藤生  
 いりきくさく一酒よむ神 石田 石雅  
 八朔や田善の進も肩ノ 伴 蓬生  
 凡の神をねむし祀り田ノ 面ノ 日 石田 石雅  
 八さくやむき者 子 や田面ノ 東林  
 八朔やおとりのむきかえり 石田 石雅  
 八さくやむき者 正 友云 石田  
 八さくやむき者 正 友云 石田



100部

月とささぐらふしつゝまうのき 白根下

此後よまゝの流わやまゝ 女孫子

まゝのきやまゝのき 巻身

候つゝまゝのき まゝ

まゝのき まゝ

まゝのき まゝ

使初よまゝのき 九把

まゝのき まゝ

まゝのき まゝ

まゝのき まゝ

まゝのき まゝ

まゝのき まゝ

まゝのき まゝ

まゝのき まゝ

月

月や雲のしよまのいそ其角  
 川流を留とあつく月る家 本江 松風  
 花月や急し白のゆりいけ 花夜  
 らつ月も花移しや雲のよちり 若仲  
 花月や別後程の雲も春の中 花守  
 早盗心まふや月の露法師 風曲

名下のゆり家より一日本橋 互趣  
 雲のちやうどくくくくくくくくく 兼徒  
 里よりいそ雲もあけくくくくく 子潮  
 十さあのをや花のしりたより 以之  
 花のよも二お花一花の月 巴菴  
 みるまもみ花のまより花の月 了の

蓮師も花のよと十お花一花の月  
 花もあまの月のよと花の月

月や雲のしよまのいそ其角 兼徒

雪

鴉のたぐい *crow* *Corvus* 東花坊

カラス カラス *Corvus* カラス *Corvus* カラス

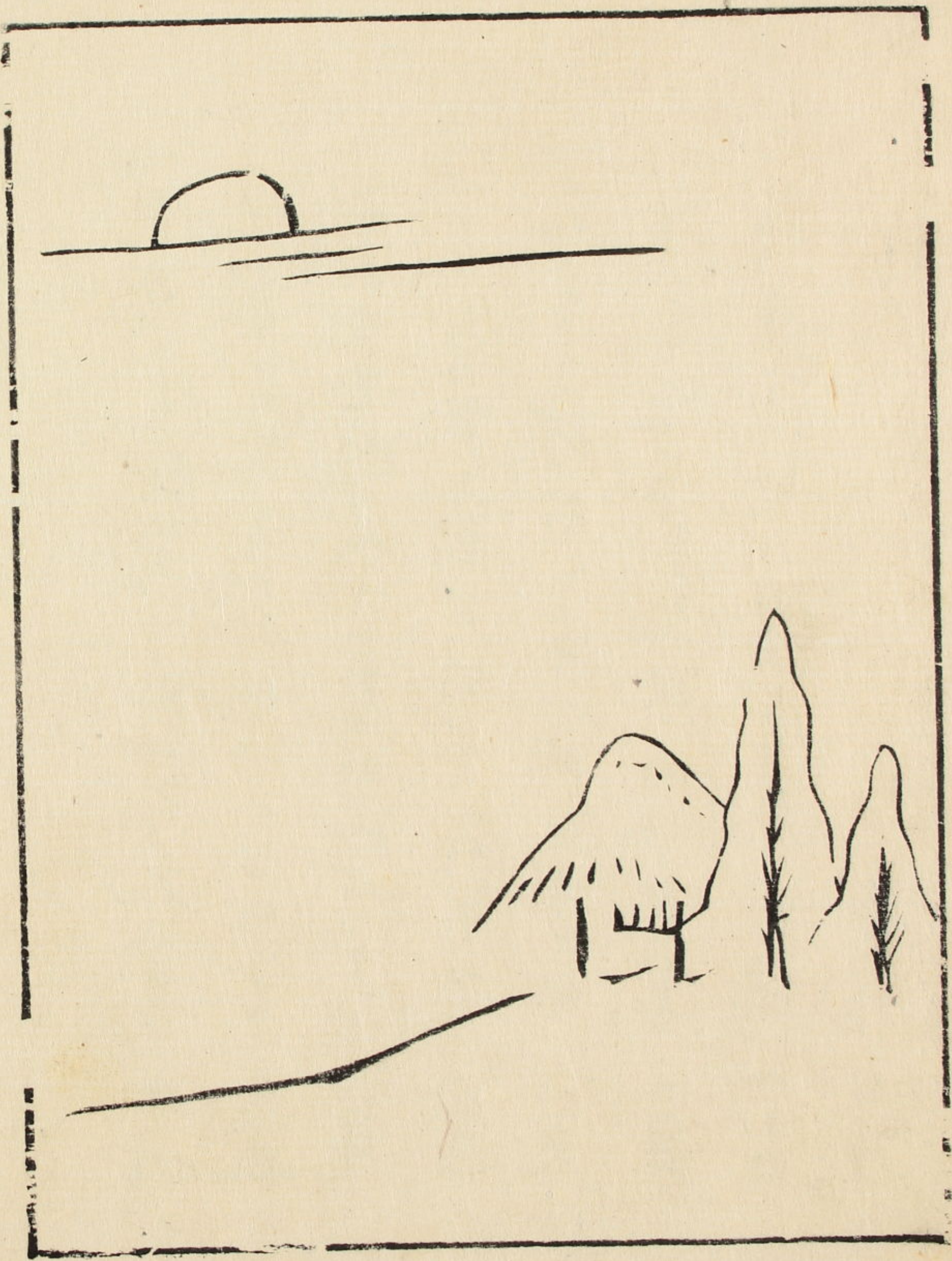
カラス カラス *Corvus* カラス *Corvus* カラス

カラス カラス *Corvus* カラス *Corvus* カラス

カラス カラス *Corvus* カラス *Corvus* カラス

カラス カラス *Corvus* カラス *Corvus* カラス

カラス カラス *Corvus* カラス *Corvus* カラス  
カラス カラス *Corvus* カラス *Corvus* カラス  
カラス カラス *Corvus* カラス *Corvus* カラス  
カラス カラス *Corvus* カラス *Corvus* カラス  
カラス カラス *Corvus* カラス *Corvus* カラス  
カラス カラス *Corvus* カラス *Corvus* カラス  
カラス カラス *Corvus* カラス *Corvus* カラス  
カラス カラス *Corvus* カラス *Corvus* カラス  
カラス カラス *Corvus* カラス *Corvus* カラス  
カラス カラス *Corvus* カラス *Corvus* カラス



初時雨

種長  
録分

井屋

花と花よなほの小ねや花の  
 子あそびよ今頃丁口切  
 葉うらむの山吹のさき  
 花と花よなほの春の  
 花と花よなほの春の  
 花と花よなほの春の  
 花と花よなほの春の

初時雨

井屋

河川の舟に乗りて海を渡る事  
舟に乗りて海を渡る事  
舟に乗りて海を渡る事  
舟に乗りて海を渡る事  
舟に乗りて海を渡る事  
舟に乗りて海を渡る事  
舟に乗りて海を渡る事  
舟に乗りて海を渡る事  
舟に乗りて海を渡る事  
舟に乗りて海を渡る事

神地知よりぬる片さら  
あはくともは差障なく  
此力はあめさうりしと  
宝りのあもるもさうりしと  
舟に乗りて海を渡る事  
舟に乗りて海を渡る事  
舟に乗りて海を渡る事  
舟に乗りて海を渡る事  
舟に乗りて海を渡る事  
舟に乗りて海を渡る事

神のふるま

推櫓のふるま ホユラ 禿念ふ 長むき 芦文

掛とよ 龍皇の御座 神のふるま 東宮

御名も まれば 神のふるま 本宮 東宮

祭鳥の 行進 神のふるま 泊 推

ま く 神のふるま 松宮

九 神のふるま 九相 東宮

ま 神のふるま 神のふるま 長林

あ 神のふるま 神のふるま 水石

お 神のふるま 神のふるま 馬岐

本 神のふるま 神のふるま 御宮

本 神のふるま 神のふるま 御宮

本 神のふるま 神のふるま 御宮

神の ふるま 神のふるま 御宮

お ふるま 神のふるま 御宮

神のふるま



十夜

道徳ゑてすまいたおのうらん山 趙 北枝  
室<sup>木</sup>しくも梅のちぢやあそいおふ 木 事寝  
夏<sup>山</sup>詹し懸し面白むむしお我 山 二川  
又<sup>水</sup>おのちよけあそいお我 水 杜虎  
又<sup>土</sup>おとむともちて<sup>土</sup>お<sup>土</sup>卵 土 芝紐  
蟻<sup>土</sup>鳩のちよけあそい<sup>土</sup>お<sup>土</sup> 土 巴轉

おのちよけあそい<sup>土</sup>お<sup>土</sup> 土 源三  
お<sup>木</sup>お<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup> 木 洗五  
解<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup> 木 横<sup>木</sup>ア  
下<sup>木</sup>お<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup> 木 揚<sup>木</sup>阪  
狂<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup> 木 六<sup>木</sup>ア  
様<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup> 木 里<sup>木</sup>ら  
お<sup>木</sup>お<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup> 木 琴<sup>木</sup>丸  
五月とあそい<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup>あそい<sup>木</sup> 木 志<sup>木</sup>あ

徳  
卷二

夷清

鳥江渡清洲の川の本記の七里 継亭  
積とれ布衣を漸 巴薩  
八石の洲もうきなり 名古を  
難けとゆふの津あり 何文  
為らしむの津も 史新  
菊ふと竹口 鳥

お伊事

お伊事 岐山 江州坊  
お伊事 大徳 伊次  
お伊事 有路  
お伊事 有路  
お伊事 有路  
お伊事 有路

煤拂

旅行

こころも又はふるまふ心ありけり 此君店 百子

煤拂やまの石の木のそと 警洲

煤拂や小川の傍の石 丁牧

こころや水の傍の石 山橋 栗儿

煤拂やあまの木のそと 大橋 葉草

煤拂のこころとあまの木のそと 全 木竹

こころや木のそと 伊尾 雲竹

羽筆や仰あまのこころ 全 木雲

煤拂や清流のそと 連中 馬齒

煤のそと 全 和偏

又まの傍の石 全 樞二

夕やまの石 全 牧市

こころのそと 全 鞍桃

煤拂や戸板と 全 草草

餅搗

正月のこゝろや餅の青羽山 柳埜園

まらうー東海乃まらうの言 以之

餅搗や牡丹と獅子の言 東羽

しーの御さうさー餅の言 御机

もらうまら本鬼眼ー言の坊 蓮支

餅搗の日やそとものいぢさう 大坂 字推

餅はまのいよも言の五粒布 小方 比柳

様のもとは花いささや餅の杵 浦を

餅はまや言母と大槌の言 枝を 水胡

まらまらも言ー言ー餅の言 吏刺

しーの言とあささー餅の言 吳井

言のむらわい言の言 早島

餅搗のは言いや白し 新こ 流 柳園

娘のまら花と後や餅 是 幸平

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 6 lines of cursive script.

Handwritten word or phrase in Arabic script, possibly a signature or a specific term.

東寺町二条下八所  
橘屋治若衛板

Handwritten text in cursive Japanese style, consisting of approximately seven lines of characters.



Vertical text on the right edge of the page, likely a page number or marginal note.

